



在日大韓基督教会
 宣教100～110周年標語
 감사의 백년, 소망의 백년
 感謝の百年、希望の百年
 (데살로니가전서 5:18)

2012年10月1日(月) 第712号

発行所 **福音新聞社** (1部100円)
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎ 03-3202-5398
 発行人/ 金 武 士・編集人/ 洪 性 完
 fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
 info@kccj.jp (総会事務局)

第63回 全国青年協議会 夏期修養会開催



青年会全国協議会主催の第63回夏期修養会が、8月15日(水)～18日(土)、長野県白馬村で開催された。53人の青年たちが、全国から集まって3泊4日のプログラムを行った。1日目の開会礼拝は、朴志暎牧師が、「手を伸ばしなさい」という題で説教した。その後、朱美恵代表が今年の主題である、「信仰に灯りをともそう!—『神の住まい』であるわたしたちがつながる場所—」をもって発題をした。その後、各分団に分かれて、発題を通して今それぞれが考えていること、悩んでいること、思ったことを共有した。

2日目は、「リレートーク企画——多様性を語ろう——」というプログラムで、今年度の中央委員が1年を通して行ってきた「多様性」についてのコラムを基に、コラム執筆者に関西地方会青年連合会の前年度会長、西南地方の青年を加えて、それぞれの立場から教会の青年会が抱える多様性について語った。午後からは、さる3月6日～12日にかけて行われた「第9回在日・日・韓青年共同研修プログラム」の報告会を行った。今年は、宮城県七ヶ浜町でのボランティアワークと福島県会津若松市でのフィールドワークなどを一週間通して行って来たプログラムの内容、その中で感じた感想を共有した。

夜は、信徒委員長である中江洋一牧師、女性会からは金必順牧師、関東地方会の青年部部長である李明忠牧師が、「学習会企画——在日大韓を知ろう——」という題で、それぞれの立場から在日大韓について語り、今青年に求めることなどについて述べた。その後、夏修では毎年行っている8・15礼拝を行った。今年は、全協の副代表である金耿昊が「8・15の意味を考える～解放・分断・統一・キリスト教～」というテーマで特別講演を行った。

その中で、朝鮮半島につながりを持つキリスト者は、8・15を前後してどのような時代を生きたのか。そしてその中でどのような課題が生み出されて来たか、という二つの問いを持って礼拝が行われた。

3日目は、「キリスト教を考えるプログラム～あなたの言葉で神さまへの思いを歌にしよう～」というテーマでワークショップが行われた。ランダムでそれぞれのグループに分かれ、讃美歌の「輝く日を仰ぐとき」、「いつくしみ深き」を用いて、各々の神さまに対する想いを共有し、一つの讃美歌を作り発表した。午後からは、それぞれの分団でこの3日間を通して感じてきたことなどを一つの劇にするスタンツ発表会に向けた準備を行い、夜にはその発表会を行った。そこでは、代表の発題や、リレートークで行った多様性についての話や、8・15礼拝から考えたことなど、さまざまなものをテーマとしたスタンツが発表され、3日間の学び、得てきたものを振り返ることができた。

最終日には、それぞれの分団が3日間学んできた中で思ったことを一つの模造紙に書き綴り、全体に発表する時間が持たれた。そこでの一人一人が紡ぎ出す言葉は、どれも誠実に心に刺さるものであった。その後、中江洋一牧師が、「共に喜び祝うために」という題でメッセージによる閉会礼拝が行われた。

今年も無事に夏期修養会を終えることができた。特に、初参加の青年たちが多く、また全国から青年が集まることができた。そして、多くの出会いと出会い直しを経験することができ、本当に恵み深い修養会であった。

今回、青年を送り出してくれたそれぞれの個教会、また、まだ出会っていない、もしくは参加できなかった青年たちのことを思うと共に、いつも支えてくれる信徒の皆様、牧師、何より私たちに今年も多くの出会いと学びを与えてくれた神さまに、心から感謝したい。(報告: 金在源)



東日本大震災 KCCJ 募金口座案内

- ・銀行 (BANK): 三菱 UFJ 銀行
(THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, Ltd)
- ・支店 (BRANCH): 高田馬場支店 (TAKADANO-BABA)
- ・種類 (SWIFT): 普通預金 (BOTKJPJT)
- ・口座 (A/C): 053-1615275
- ・名義: 在日大韓基督教会総会
(THE KOREAN CHRISTIAN CHURCH IN JAPAN)

「改定入管法」施行に抗議集会 管理強化に NO !



日本で暮らす外国人の「在留管理制度」が、去る7月9日から一新された。60年続いてきた自治体発行の外国人登録証明書(外登証)が廃止され、国が発給する「在留カード」へ切り替えた。このような、国が外国人住民の情報を一元的に管理監視する「改定入管法」に対する抗議集会が、去る7月8日(主日)、在日・日本教会、留学生(中国、ベトナム、韓国)など45名が参加し、在日大韓基督教会小倉教会(西南KCC)で開かれた。

諸団体からの実行委員会で主催された抗議集会は、講演会後小倉駅までデモ行進し「共に生きる社会」を訴えた。講師の崔聖植(チェソンシク)氏(国際行政書士・北九州出身、東京在住)は、「国は外国籍住民の徹底的な管理監視体制を整えた」と説明した。また「日本社会の治安確保が主な理由として挙げられているが、その間超過滞在者に対する取り締まり強化で日本の治安が良くなったのか」と問い掛けた。



また、「国は在留期間の上限を3年から5年に延ばしたと言うが、下限は3カ月に縮められた」と指摘した上で、「国が外国人情報を一元的に管理する事で超過滞在者を減らすことが狙いだ。しかし67,000人の在留資格がない人々が教育、医療等から排除され、生存権を奪われる問題を孕んでいる」とも指摘した。

さらに、日本国民を対象にした戸籍法・住民基本台帳法と決定的に違う点は、①顔写真の他、勤務先など数多くの登録事項を義務づけている事、②外登証の常時携帯と定期的な確認登録が義務づけられている事、③これらの義務規定を刑事罰によって強制している事、である。また、「居住地変更の手続きを14日以内にできなかった場合、罰金20万円他(日本人は過料5万円のみ)、90日超過すると在留資格剥奪し強制送還することも可能である。特別永住者証明書や在留カードの提示、携帯義務違反に1年の刑罰があり、警察が任意同行や別件逮捕をしやすくするものだ」と批判した。

当実行委員会は、3年前に法案が成立した時にも反対と抗議の集会とデモを行った。日本に滞在する外国人住民について、これまでは法務省入国管理局が出入国や在留期間の情報を各自治体が居住地や世帯等の情報をそれぞれ管理していた。自治体は在留資格の有無に関わらず、行政サービスを行ったが新制度によって立ち切られた。

在留外国人住民の中には、新制度移行を知らないまま違法状態に陥るケースが予想される。昨年末時点で外国人登録者数は約208万人だが、彼らの人権保障が懸念されるのが現実である。

(報告:朱文洪)

KCCJ クリスマス献金支出用途

KCCJ クリスマス献金は、下記のように使われました。全国諸教会からの大切な献金が、無駄のない使い方ができるよう、なお励んで参りたいと思います。

(報告:総幹事洪性完) ※詳細は、総会ホームページ参照

- ・2011年9月1日～2012年8月31日
- ・総額 ¥1,612,207
- 1. 浪速教会ホームレス支援 ¥500,000
- 2. 韓国盲人宣教支援 ¥300,000
- 3. 農村伝道神学校 ¥100,000
- 4. 在日韓国人問題研究所 Research-Action Institute for the Koreans in Japan (RAIK) ¥150,000
- 5. 富坂キリスト教センター ¥50,000
- 6. ミクタムミュージックミニストリー ¥50,000
- 7. NCC 障害者と教会問題委員会 ¥100,000
- 8. 全国キリスト教学校人権教育研究協議会 ¥150,330
- 9. 学校法人アジア学院 ¥100,000
- 10. 外登法の抜本的改正を求めるキリスト教連絡協議会(関東) ¥50,000
- 11. 次年度繰越 ¥16,387

在日同胞文化の創造と多文化共生社会を目指して2006年4月25日、創立100周年を迎えました。



- ◆東京で一番安く便利な宿泊研修施設(ホテル):フロントは日・韓・英語に対応、24時間サービス。10名様から200名様の会議及び宿泊研修(50名様)も可能。
- ◆スペースワイホール:220席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに最適
- ◆韓国文化(チャング・カヤグム・舞踊)教室・韓国語講座・各種こどもクラス
- ◆YMCA アジア語学院(日本語学校) ※会員及び教職者割引有

在日本韓国 YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国 YMCA アジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5

関西韓国 YMCA アジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道 3-14-15

TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633

TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

(税込み)	平日	休・休前日
シングル	¥6,300	¥5,040
ツイン	¥11,550	¥9,240
トリプル	¥14,490	¥11,592
朝食 ¥200 カルピック、コムタン、ユッケジャン、韓定食、洋食(全メニューコーヒープッキ)		

＜つくば東京教会＞創立 25 周年 韓南金勸士就任を同時に

去る 7 月 8 日（主日）、つくば東京教会創立 25 周年礼拝が、四半世紀の歩みを導かれた神にあふれる感謝を捧げつつ行われた。1987 年の開拓時の初代担任牧師であった森田日出夫牧師（現、広星キリスト教会牧師）が招かれ、辞任以来はじめて立つ講壇で、「여호와를 기뻐함은 (主を喜ぶことは)」(ネヘミヤ 8:9-12) という題目を持って、開拓当時の貴重な歴史を交えながら説教をされた。



そして、現担任牧師である許伯基牧師により、教会の歩みを写真のスライドショーで振り返る略史紹介の時間があつた。さらに、広星キリスト教会の信徒であり、ゴスペルグループ LYRE の宮脇栄子姉により祝福の讃美が捧げられ、第二代担任牧師であり現副総会長である趙重來牧師、総会総幹事である洪性完牧師、そして日本基督教団関東教区茨城地区を代表して橘秀紀牧師（教団水戸教会）によって、祝辞が述べられた。

この記念礼拝とあわせて、韓南金勸士就任式も行われた。これは、つくば東京教会 25 年の歴史の中で初めて行われる勸士就任式である。本人と信徒たちによる誓約ののち、韓在文牧師（水戸教会）によって勸勉がなされた。礼拝は森田日出夫牧師の祝祷を持って終えられたが、盛りだくさんの順序と、語り手たちのつくば東京教会への思いの深さとがあいまって、何と 3 時間（！）を超える記録的に長い礼拝となった。式の後、女性会が心を込めて準備した料理を囲んで、愛餐の時を持った。

これまでの歩みを導かれた神が、これからのつくば東京教会とその信徒たちの歩みをも導き守られることを心より祈りたい。（報告：許伯基）

＜名古屋教会＞永信保育園 新園舎 竣工式挙行

1951 年 8 月、在日大韓基督教名古屋教会が母体となって開設された永信幼稚園が 1973 年 9 月、社会福祉法人「永信会永信保育園」（定員 60 名）として認可を受け、早くも来年は 40 年を迎えることとなった。

名古屋駅より徒歩 7 分の距離のオフィスビルに囲まれた位置にあり、昼間の人口が 60,000 人に対して夜間 2,000 人となる特異な地域とはいえ、地域住民のみに留まらず、名古屋市全区域の人々に利用されている保育園である。その間、隣人を愛し、人々に仕える保育園としてイエス・キリストの福音の種まきを担ってきた。

女性の社会進出に伴い待機児童が増加している昨今、2011 年 1 月、名古屋市では待機児童解消対策として保育園の増設等を推進しており、当保育園に 100 人定員の増設要請があつた。社会福祉法人永信会（理事長・金照男長老）は、名古屋市の要請に基づき、13 年前運動場として与えられた 501㎡の土地に、4 階建ての新園舎の建設を理事会で承認。本年 1 月 8 日、起工式。そして、去る 8 月 11 日に竣工式を、礼拝をもって挙行することができた。



竣工式では、朴太元牧師（豊橋教会、特別養護老人ホーム永生苑豊橋苑長）の司式のもと、「あなたがたが食べさせなさい」（マタイ福音書 14：13－21）との金性済牧師（名古屋教会、特別養護老人ホーム永生苑名古屋苑長）の説教の後、名古屋市子ども青年局保育企画室主幹、忠平守氏ほか来賓祝辞があり、厳粛な内に竣工式式典が進行された。

第二部は、朴洋子長老（名古屋教会、永信保育園園長）の司会のもと、愛餐会がもたれ、年長児が歌う「きみは愛されるために生まれた」の讃美に、会場から感動の声の上がる一幕もあった。朴洋子園長によって、この新たな出発に至るまでの歴史において、名古屋教会の信徒の祈りに支えられたこと、何よりも神様の導きによってであることの感謝が述べられ、和やかな歓談の後、恵みの内に閉会となった。

（報告：朴洋子）

豊かな味、豊かな心。



妻家房
SAIKABO

代表取締役 呉永錫（東京希望キリスト教会 長老）

四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

＜西新井教会＞炊き出し奉仕 被災地仮設住宅、郡山へ！



従来、関東地方社会部が毎月、被災地への炊き出し奉仕を各教会につり行ってきたが、8月は西新井教会が単独で奉仕することになった。しかし、初めてのことであり、郡山伝道所の協力をえて、実現することができた。また、総会の社会委員会から交通費を補助していただいたことも感謝である。

8月1日（水）に車三台のワゴン車で出発し、福島県郡山市にある富岡町緑ヶ丘応急仮設住宅をめざし、現地で郡山伝道所の朴正根牧師と待ち合わせた。車両のうち一台は、東京源泉教会の張慶泰牧師が快く奉仕に参加し、同行した。仮設住宅は、50世帯ほどの中規模である。

早速、自治会長である北崎一六さんや富岡町生活復興支援センターの吉田昌子さんにあいさつをし、奉仕にとりかかった。教会が昼食として準備したのは「冷麺」「お餅」であるが、冷麺の中にはすいかを大きく切って入れ、とてもおいしいと評判であった。

夏の暑い日差しのなかであったが、テントを建てて手際よく女性会のメンバーたちが汗をかきながら準備をした甲斐があった。120食以上を準備したが、余るものはなく、すべて提供することができた。

寄り合い広場として解放している住宅の中で奉仕者たちも一緒に冷麺を食べながら、富岡町から避難して来ている人々を交わる時間もあった。福島第一原発の付近にある町だが、放射能の影響で家に戻れずにいる人々である。少しでもねぎらおうと、教会の青年たちによる讃美、郡山伝道所の姉妹たちによる韓国舞踊を披露することもできた。

短い交流時間ではあったが、またの再会を約束しながら名残惜しみつつ、帰路についた。奉仕した女性会のメンバー13名全員がむしろ励まされ恵みをいただいた、よき一日であった。

（報告：韓聖炫牧師）

在日韓国基督教会館 (KCC) 主催 第9回 歴史講座開催

去る9月18日（火）、KCC（大阪）にて、五十嵐喜和先生（日本キリスト教会 茅ヶ崎東教会）を講師にして、「日本キリスト教会と在日大韓基督教会（KCCJ）の宣教協約の意義」という主題で、第9回歴史講座が開講された。

まず金成元長老（KCC 館長）の司会により、五十嵐喜和先生が紹介された。講義は、①戦前の歴史、とりわけ在日朝鮮基督教会が日本基督教会に加盟するに至った経緯とその問題点、②両教団が宣教協約を結ぶに至る際の問題意識、③今後、宣教協約の内実を深めるというところに焦点が当てられた。

講師は、「わたしとしては日本基督教会がその際に行ったことの問題性と罪責を覚えるとき、『在日朝鮮基督教会が日本基督教会に〔併合〕されるに至った経緯』と表現したい」と言う。また講義は、「日本キリスト教会と在日大韓基督教会との宣教協約文」の内容を軸に展開された。



「皇民化政策は、勿論『外地』だけではなく『内地』においても実施されたが、1938年10月の日本基督教会第52回大会に於いて『在内地朝鮮人教会に関する建議案』を採択したのであります。これが今回の宣教協約締結にいたる原因であります。当初『在内地朝鮮人教会』は、日本基督教会に対して、『合同または協調』を提案したのでした。

しかし後にカナダ長老教会のミッションから、『帰属せしめん』として交渉してきたのです。その意向を日本基督教会は受け、これに対処することを決定したのであります」と言う。（5面→）

福音新聞原稿募集

- ・内容：各報告、証し、説教、寄稿、自由投稿等
 - ・対象：在日大韓基督教会所属の全信徒
 - ・言語：韓・日語（得意な言語でお願いします。）
 - ・写真：1－3枚程度（添付ファイル）
 - ・期間：年中（締め切り：毎月20日）
 - ・送信先：fukuinshinbun@kccj.jp
shinacho2003@daum.net
- *文章は、word ファイルでお願いします。

福音新聞社 編集部

また「翌 1939 年春、日本基督教会の交渉委員は、以下の 3 項目を提示したと伝えられます。①日基の信条に服すること②布教は国語を使用すること③教役者の再試験をなすこと(『特高資料によるキリスト教運動』第一巻所収、「朝鮮基督教と日本基督教の合同問題」) この提案の記録は日本基督教会側には見出すことが出来ませんが、当然のことながら「朝鮮基督教会」には受け入れられるものではありませんでした、これが『加入』の名による『併合』問題であります」と述べた。

最後には、「今後、宣教協約の内実を深める」という事に焦点が当てられたが、講師は「日本キリスト教会は初めての宣教協約締結の経験であるため、全体として、また各中会として、特に各個教会として、どのような交わりと協力の仕方があるかについて、模索が重ねられているのが現状です」と述べた。

また、質疑応答の時間が設けられ、金武士牧師(総会長)ならび李清一牧師(KCC 名誉館長)などから質問がなされ、それに対する適格な講師の応答があった。講義後、懇親会もあった。この学びを通じて韓日教会が新たな歴史的軌跡を築いたと言えるような有意義な一時をもつことができた。

共に歴史を学び、真実に迫り、反省しイエス・キリストにあっての良き交流がなされたと言える。(報告：金承熙)

＜関東地方会＞女性連合会

60 周年記念 1 泊研修会開催



自然の中で神に感謝！

讃美しよう！

み言葉に触れよう！

猛暑が続く 8 月 28 日～29 日、日光オリブの里で、関東地方会女性連合会の 60 周年記念研修会が(7 教会、25 名参加)開催された。関東地方女性会は、数年前に八王子で一泊研修会が行われたが、今回の研修会も開催できたことを感謝したい。

開会礼拝は、新井由貴牧師(東京蒲田教会、関東地方女性部部長)が、「今一番の関心事は？」(フィリピの信徒への手紙 1:12～30)という題で説教した。その後、2つのグループに分かれ話し合いを持った。その題は、①健康、②総会憲法で 70 歳定年が定められている故、奉仕が限られていること、③どうすれば教会学校に子供たちが集まれるのか、④教会のビジョンに向かって、等である。そして、60 周年記念誌発行の提案があった。

夕食は金道子長老(船橋教会)が準備したバーベキューで、心もお腹も十分満たされた。夜は、頭と身体の柔軟性を測り、頭と身体の硬さ柔らかさを思い知らされた。

二日目の早天礼拝は、金迅野牧師(横須賀教会)が説教(ヨハネによる福音書 15:12)し、清々しい朝の中でたくさん讃美をし、恵みを受けた。午前中は、東照宮の見物した。

閉会礼拝は、石橋真理恵伝道師(横浜教会)の説教(ホセア書 14:6～7)、趙重来牧師(船橋教会)の祝祷で、全プログラムを無事に終えた。

参加者たちは、「私たちは、同じ教会員でもじっくりと語り合う時間が少ないのが現実、ましてや地方会員となると皆無に等しい状況です。今回は本当に短い時間でしたが、他教会員との交わりの中でみ言葉を聴き、讃美し、語り合えたことは多くの恵みを受け、豊かにされた二日間でした。」と言っていた。(報告：金芳植長老)

在日大韓基督教会・日本キリスト教会
宣教協約締結 15 周年記念集会

教会の宣教課題としての隣人—平和の福音に生きて

교회와 선교를 위한 이웃—평화의 복음으로 살아가

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。」
“그는 우리의 화평이신지라”-エフェソ書 2:14

日時: 11月23日(金)
午前11時(受付10時半)
場所: 在日大韓基督教会 名古屋教会

<プログラム>

第1部 記念礼拝
・説教 金武士牧師(在日大韓基督教会総会長)
・餐会

第2部 交流会
・韓国舞踊パフォーマンス
・発題: 金性済牧師(在日大韓基督教会名古屋教会)
五十嵐喜和牧師(日本キリスト教会 茅ヶ崎東教会)
・各教会紹介と全体討論

在日大韓基督教会 名古屋教会
〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-39-11
http://www.kccj-nagoya.or.jp
TEL:052-541-1980 E-mail: ngkc1928kccj@yahoo.co.jp

＜青年の声＞ 関西青年連合会 金聖大会長からの手紙

안녕하십니까! 先日開かれた、2012年度関西地方会青年連合会(関連)定期総会において、2012年度会長の役目を頂きました、大阪教会の金聖大と申します。この度は、役員改選のご報告と新役員からのご挨拶を兼ねて、筆を執らせていただきました。先日の定期総会にて金聖大(大阪)、白勝和(大阪)、全聖一(布施)、申美華(大阪)の4名が新役員として選出され、関連が新しい一步を踏み出しました。

私たち関連役員一同は、一年間を通して「関西地方にある在日大韓基督教会に連なるキリスト者青年としてのあり方」を考えていく上で、できるだけ多くの青年たちと同じ時間を共有していきたいと願っています。私はいつもこのような問題を考えるにあたって「枠組み」について考えずにはいられません。私たちは普段の生活において、周りの人間を「自分が作り上げた枠組み」の中に取り込んで考えてしまっていないでしょうか。同じ在日大韓基督教会に連なる者でありながら、「あの教会はうちの教会とスタイルが違うから分かりっこないだろう。」あるいは同じ教会にいながら、「世代の違う信徒には分かりっこないだろう。」ややもすれば同じ青年会にいながら、「あいつには分かりっこないだろう。」

果たしてそれは、私たちが本当にあるべき姿でしょうか。私たちが倣おうとする方は、そのように「枠組み」の中で生きられたのでしょうか。私たちが心から耳を傾けようとする神の御言葉は、そのようなことを語っているのでしょうか。また、一人ひとりが違っていることは、間違ったことでしょうか。私は、そのような「違い」を尊重し合い認め合えた時にこそ、私たちが歩むべき一步を踏み出せるのではないかと思います。私はこのように様々な人と連なりながら何かのビジョンを探っていくとき、ひとつの写真のようなものを思い浮かべます。ただ一色の、ただひとつの点では像を結ぶことは困難です。しかしまた、どれほど多くの点が集まってもそれらが全て同じ色であっては像を結ぶことはできません。様々な色をした小さな点がいくつも集まることによって、またそれらがありのままの色で美しくいられることによって、次第に鮮明な像が浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

私たちは、一筋の希望を見出すことさえ困難なこの現代社会において、尊重し合うべき個々として在日大韓基督教会に連なりながら、どのような像を描いているのでしょうか。描きたいのでしょうか。描くことができるのでしょうか。私たち関連役員は、この一年を通してそれぞれ美しい色を持った青年がときに混ざり合い、ときに反発しながら、希望につながる美しい像を描ける場を作り上げていきたいと願います。まだまだ未熟な私たちですが、本年度もご指導ご支援よろしく願いいたします。(総会ホームページには自筆手紙も)

＜宣教協力協議会＞

日キ教団関東教区・関東地方会

東地方会の宣教協力部主催で関東地方会と日本基督教団関東教区(以下、関東教区)との宣教協議会が9月24(月)から25(火)まで、日光オーリーブの里で開催された。1984年、日本基督教団と在日大韓基督教会が宣教協約を締結してから、関東地方会と関東教区は様々な形で協議してきた。



今回の協議会では、「原子力発電からの脱却」を主題にして、意義深い協議会になった。関東教区からは、総会議長である秋山徹牧師(埼玉地区・上尾教会)を初め12人の牧師、関東地方会からは14人の牧師が参加した(合計26人)。

開会礼拝では、李明忠牧師(横浜教会)が「男たちの信仰」という題で説教した。その後、関東教区の熊江秀一牧師(新津教会・関東教区宣教委員長)が教区の声明文である「原子力発電からの脱却を求める」をもとに、主題講演をした。関東教区の地域は、2011年3月11の東日本大震災によって大きく被災し、その上に東京電力福島第一原子力発電所事故が重なり、放射線汚染の影響を深刻に受けている地域である。

夜は、朴正根牧師(郡山伝道所)が、「KCCJ 郡山伝道所における放射能との戦いと地域奉仕」について発題した。朴牧師は、福島原子力発電所近隣の住民が仮設住宅で避難生活を余儀なくされている様子とその避難住民に対して炊き出し奉仕と宣教の働きに専念していることを報告した。その後の質疑でも熱い討議がなされた。

二日目の祈祷会には、鄭仁和牧師(日立教会)が「真の慰めとは?」という題で説教して祈った。朝食後は、地震と放射線の被災地であるアジア学院を見学し、その働き、被災と復旧などの状況についての報告を受けた。苦難の中でも被災を乗り越えて、与えられた使命を全うする学院の働きに、参加者は大いに励まされた。

最後の閉会礼拝では、村田元牧師(原市教会)による「聖霊の時代に生きる教会」という題目の説教があり、これからも様々な形で、この地における宣教の働きによきパートナーとしての協力和活躍を祈り合いながら閉会した。

(報告: 姜章植)

創世記連続講解 (15)

尹宗銀 牧師
(横浜教会名誉牧師)



創世記 29 章

創世記 29 章の総主題は、「花嫁のためにヤコブの奉仕」である。

- ① 1-8 節：ヤコブがハランの井戸端に到着。
- ② 9-14 節：ラケル [Rachel] の案内でラバン [Laban] に出会う。
- ③ 15-20 節：ヤコブがラバンのために奉仕する。
- ④ 21-26 節：ラバンがレア [Leah] でもってヤコブをだます。
- ⑤ 27-30 節：ヤコブがラケルのために更に 7 年間奉仕する。
- ⑥ 31-35 節：ヤコブがレアから子供をもうける。

本章は、ヤコブがラバンの家に案内された事柄の記録である。ベテルで現れた神が約束された通りに、神はヤコブを保護し、導いて、ヤコブは目的地であるハランに無事に到着した。そして、母方の叔父ラバンにも逢えるようになった。なじんだ故郷から離れて異国の生活は当然寂しかったに違いない。しかし神は、約束された通りに共にしてくださり、保護してくださるので、如何なる場合でも安心することができた。ヤコブは、ラバンの家でラケル [Rachel] を愛して、7 年間ただ働きをしたが一日のように忠実に働いた。

愛は、奉仕の原動力である。ヤコブは、7 年間も待ち続けたがラバンにだまされて約束したラケルは与えられないで、その代わりにレア [Leah] を与えられた。ラケルのためには、更に 7 年間ただ働きをせざるを得なかった。20 節は、ヤコブがラケルを愛した事実を語っている。世の中で第一が愛である。ヤコブがラケルのために 7 年間働いたが、彼女を愛していたので、それはほんの数日のように思われた。一人の愛する女性のために 14 年間も無報酬で働くということに、愛の偉大さをヤコブから学ぶのである。

ラバンがヤコブをだましたのは道理できない。しかし、神の摂理は無心ではなかった。ヤコブがラバンにだまされたのは、以前に父兄をだました罪に対する報復である。人をだます者は、いつでも自分もだまされると言うことを学ぶのである。神はヤコブを選び、愛し、保護し、祝福するのである。彼が神の聖なる御心を遂行するには、厳しい訓練の教育が必要であったからである。欺きの罪が、如何に恐ろしいかを知らしめる。

創世記 30 章

創世記 30 章の総主題は、「ヤコブの子女と物質の祝福」である。

- ① 1-8 節：ラケルの召し使いビルハ [Bilhah] が男の子を産んだ。
- ② 9-13 節：レアの召し使いジルパ [Zilpah] が男の子を産んだ。

- ③ 14-21 節：レアは五人目の男の子を産んだ。
- ④ 22-24 節：ラケルが長子ヨセフを産んだ。
- ⑤ 25-30 節：ヤコブが故郷に帰る準備をする。
- ⑥ 31-36 節：ヤコブとラバンが報酬を定める。
- ⑦ 37-43 節：ヤコブが羊の繁殖によって富を儲ける。

本章は、ヤコブがラバンの家で行われた様々な出来事の記録である。一夫多妻は、神の創造記録の中で一男一女制度に違背する罪悪である。ヤコブは、ラバンの家で二人の妻を娶ったのと子供を産ませるために二人の召し使いを娶ったのは、いくら道義思想が低い当時の風俗であるにしても信仰と道徳上から見ても罪悪である。ヤコブの多妻の生活は、家庭をどれほど惨めにしたかを知ることができる。

しかし神は、人間の失敗を変えて祝福にした。ラケルは、愛の代わりに子供が生まれないようにし、レアは憎悪の代わりに子供たちを与えて平均を計られた。ラケルは、その後ヨセフを産んだが、長い歳月の間子供のない辛い悲しみを味わわなければならなかった。愛する者にも信仰の試練があった。ラケルはハンナ [Hannah] のように (サム上 1:10-11) 祈ることはなく、姉を妬んで夫を恨むのであった。

子女は神が与える者で、サラもリベカも子供がなかったが、神の恵みによって息子を産むことが出来た。ラケルは、当時異邦人たちの風俗を倣って、自分の召し使いをサラと同じく、夫に提供して子供を得ようとした (16:2)。信仰と祈りのない家庭に不平と反目があるのは当然なことである。ヤコブは、失敗を重ねたが約束によって祝福は離れなかった。

ラバンは、自分の利益のためにヤコブを留めようとした。しかしヤコブと約束しことは、羊の中で黒みがかった羊全てと山羊の中でぶちとまだらのあるものはすべてヤコブのものにするとした。ラバンは、ヤコブによって富める者になったにもかかわらず、ヤコブに対して狡猾な、そして卑劣な行動をとった。ヤコブは、これに備えて奇策を使用して自分のものにする羊を増やした。ラバンの不信な態度も嫌なものであるが、ヤコブの狡猾な工夫も隅におけない笑いごとである。ヤコブの不義な根性は、時々表面化した。しかしヤコブは、その奇策によって財産を増やしたのであった。

鈴木崇巨

**韓国はなぜ
キリスト教国
になったか**

真の和解と友好を目指して

定価 (本体2200円+税)

『韓国はなぜキリスト教国になったか』の著者である、鈴木崇臣 (スズキタカヒロ) 牧師は、15 才の時「教会へ行って見よう」と思って行った教会が在日大韓基督教会であった。そして東京神学大学を卒業し、牧師となり半世紀以上、日本の各地で奉仕をして、現在は大学で講義をしている。著者は、「多くの日本人に、韓国で起きている精神的な変化がいかに大きいかを理解してほしい」ので本書を書いた。

在日韓国基督教会館 (KCC) 館長就任及び名誉館長推戴式



去る9月30日(主日)、在日大韓基督教会大阪教会と在日韓国基督教会館(KCC)にて、金成元主任幹事館長就任式と李清一館長名誉館長推戴式が執り行われた。午前から台風17号の影響で、強い風と雨の中、遠方からも大勢の方々が参加し、祝福した。

1部の記念式は、午後4時から、大阪教会にて、全聖三牧師(書記理事)の司式と金必順牧師(理事)の奏楽で、執り行われた。金石水長老(副理事長)の祈祷と関西地方会聖歌隊連合会の讃美の後、金武士牧師(理事長)が「キリストのともし火は消えない」(マタイによる福音書5:14-16)という題で説教した。金牧師は説教の中で、KCCの41年間の歩みと地域における人権活動の方針を述べて、「KCCの活動は教会の御業である」ことを確認した。

その後、名誉館長推戴式と宣布、館長就任式が行われ、趙永哲牧師(関西地方会会長)の推戴辞、金容賛長老(関西地方会副会長)の勸勉があり、尹聖哲長老(財務理事)が祝電・祝文を紹介した。記念品贈呈、花束贈呈の後、前島宗甫牧師(元NCC総幹事)と洪性完牧師(KCCJ総幹事)からの祝辞があった。その後、李清一名誉館長、金成元館長の答辞があり、鄭然元牧師の祈祷で、記念式を終えた。

2部祝賀会は、KCCにて、午後5時半から始まり、食事と歓談の時間をもった。金安弘牧師(KCC前理事長)の開会祈祷の後、池長潤大司教(カトリック大阪司教区大司教)、徐龍達先生(桃山学院大学名誉教授)の祝辞と金勇聖長老(KCC前監査)の乾杯の発声があった。

関西地方会聖歌隊連合会のお祝いの歌と、向井希夫牧師(日本キリスト教団大阪教区議長)、金必順牧師(KCCJ全国教会女性連合会総務)、小柳伸顕牧師(日本キリスト教団牧師)、千葉宣義牧師(日本キリスト教団牧師)、飛田雄一館長(神戸青年学生センター)、崔春子牧師(KCCJ関西地方会社会部部長)、大西修主教(日本聖公会大阪教区主教)、原田光雄牧師(NCC-URM委員長)、兪正根長老(京都教会長老)の祝辞の言葉があった。

そして、イカイノ保育園開園以来、主任保育士として、今年3月まで勤められた近藤弘子先生が紹介され、金雪児さんから贈り物が渡された。



最後に、李清一名誉館長、金成元館長、金武士理事長の感謝の挨拶があって、これからもKCCの歩みの上に主の祝福と導きを祈り、祝賀会を終えた。外はすでに雨が止んで、秋の空であった。(報告:李相勁)

☆ ☆ ☆

1970年10月、第26回定期総会が京都教会にて開催され、「在日大韓基督教会の社会的責任に関する態度」を表明した。当時の、在日キリスト者社会における社会診断であると言えよう。1971年10月、第27回定期総会が大阪教会にて開催され、総会期間中の10月13日「在日韓国基督教会館KCC」の開館式が執り行われた。1973年10月、第29回定期総会の場にて「宣教基本政策」を採択しており、1974年2月には「在日韓国人問題研究所RAIK(Research-Action Institute for the Koreans in Japan)」が設立される。この一連の歴史における在日大韓基督教会の育みを振り返りつつ、2012年9月30日(日)在日韓国基督教会館(KCC)館長就任式及び名誉館長推戴式に与った。

(報告:総幹事洪性完)

☆ ☆ ☆

・金成元 館長略歴

1951年11月生、1972～79年 在日韓国人問題研究所(RAIK)幹事、1981年 KCC幹事就任、2004年5月大阪教会長老奨立、2012年4月 KCC館長就任、2012年4月～ 外国人との共生をめざす関西キリスト教代表者会議事務局長、2012年10月 イカイノ保育園園長兼任。

・李清一 名誉館長略歴

1942年3月生、1971年7月 KCC幹事就任、1983年10月 KCC総幹事就任(1999年館長に名称変更)、1983年6月 イカイノ保育園園長兼任、1985年～95年 アジアキリスト教協議会国際問題委員会・都市農村宣教委員会委員、1985～12年 外登法問題と取り組む関西キリスト教代表者会議事務局長、1997～12年 日本キリスト教協議会都市農村宣教委員会(NCC-URM)委員長、2009年～ 関西いのちの電話理事長。

<住所変更> 金鍾樞牧師(平野教会) 新住所

〒581-0052 大阪府八尾市竹淵4-16

TEL: 06-6700-7735 / 090-5054-5782